

研究レポート No.847 岩手県農業研究センター

水稲出穂期以降のアカスジカスミカメ防除対策(追補)

【1 成果概要】

- (1) 斑点米カメムシ類に対し茎葉散布した場合、MEP 乳剤(商品名:スミチオン乳剤)、クロチアニジン水溶剤(商品名:ダントツ水溶剤)、エチプロール水和剤(商品名:キラップフロアブル)、ジノテフラン水溶剤(商品名:アルバリン顆粒水溶剤)の斑点米を抑制する期間は異なります。
- (2) ジノテフラン剤は約2週間の斑点米抑制期間が見込めますが、その他の剤は、ジノテフラン剤ほどは見込めません(表1)。

表1 斑点米カメムシ類防除試験(平成27年、28年)

年次	穂揃期1週間後の 供試薬剤	調査 粒数	斑点米(1.9mm以上)				混入 率(%)	無処理 比	割れ粳率 (%)
			頂部	側部	その他	計			
平成 27年	スミチオン乳剤	10843	3	1	0	4	0.04	9.7	17.7
	ダントツ水溶剤	10680	4	1	0	5	0.05	12.3	25.2
	キラップフロアブル	10347	2	3	0	5	0.05	12.7	27.2
	対) アルバリン顆粒水溶剤	11351	1	1	0	2	0.02	4.6	27.3
	無処理	11790	4	40	1	45	0.38	(100)	23.0
平成 28年	スミチオン乳剤	31633	2	14	1	17	0.05	24.9	63.8
	ダントツ水溶剤	32256	0	20	0	20	0.06	28.7	69.3
	キラップフロアブル	33087	1	21	1	23	0.07	32.2	58.3
	対) アルバリン顆粒水溶剤	69002	6	2	1	9	0.01	6.0	71.7
	無処理	32895	4	64	3	71	0.22	(100)	65.0

【試験概要】

試験場所：農業研究センター内圃場 品種：あきたこまち 連制：2連制
 移植日：平成27年5月15日、平成28年5月16日
 穂揃期：平成27年8月2日、平成28年8月4日
 成熟期：平成27年9月15日、平成28年9月12日
 試験区：薬剤処理は2回散布とし、穂揃期約1週間後(1回目)および同約3週間後(2回目)に茎葉散布した。
 1回目散布は、それぞれスミチオン乳剤(1000倍)、ダントツ水溶剤(4000倍)、キラップフロアブル(2000倍)、アルバリン顆粒水溶剤(2000倍)を用い、2回目散布は各薬剤処理区ともアルバリン顆粒水溶剤(2000倍)を用いた。

【2 留意事項】

- (1) 平成27、28年における斑点米カメムシ類は少発生であり、アカスジカスミカメおよびアカヒゲホソミドリカスミカメの発生が見られました。
- (2) 追加防除をする際、ジノテフラン剤(スタークル、アルバリン)を穂揃期1週間後に茎葉散布した圃場では、穂揃期3週間後に実施することで、斑点米被害を低く抑えることができます。その他の剤を穂揃期1週間後の防除に用いた場合、追加散布は穂揃期2週間後に実施してください。
- (3) 研究レポート No. 671 も合わせてご覧ください。